

茨城県 社会福祉士会 NEWS

NO. 40

発行 一般社団法人 茨城県社会福祉士会
Ibaraki Association of Certified Social

Workers

発行日 平成23年3月31日<2011. 3. 31>

編集 広報事業部

事務局 〒310-0851

茨城県水戸市千波町1918

茨城県総合福祉会館内

Tel : 029-244-9030

Fax : 029-244-9052

ホームページ <http://www.csw-iba.org/>

Eメール csw-iba@csw-iba.org

会員の皆様へ

～私たち一人一人ができること・本会として取り組むこと～

会長 竹之内章代

東北関東大震災において、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

東北関東大震災という、未曾有の災害に日本中、いや世界中が被災の大きさと原発の問題に注目し、その対応や救援に力を注いでいます。私たちの住む茨城県も、震度6強から弱という体験したことのない大きな地震と太平洋沿岸では大きな津波に襲われるというかつて味わったことのない恐怖と絶望にみまわれました。東北ほどの規模ではありませんが、まだまだ続く余震、ライフラインが止まり、あるいは住居や施設、事業所の建屋・家屋の損壊、津波による浸水、水や食料や燃料の不足、さらに福島県からの避難民の対応、農産物や酪農などの汚染の問題など、生活のあらゆる場面で何らかの支援が必要な状況があり、各方面で職業人として社会福祉士として、会員の皆様におかれましてはご尽力されていることと存じます。本当にありがとうございます。福祉士会の事務所も徐々にその機能を回復させつつあるところです。

現在、県内の状況をブロック長を通じ確認をしておるところですが、同じ茨城といえどもその被災状況は様々です。具体的に、すぐに支援を要する地域とある程度状況が落ち着いてからの支援が必要な地域、あるいは他の地域や東北に社会福祉士としてボランティアとして入れる準備ができておられる方など、状況はまちまちです。

そこで、皆さんにお願いします。社会福祉士会のメンバーをボランティア（特に生活ニーズの聞き取りやあるいは相談することで不安や負担が軽減される方へのケア、あるいは施設でも具体的な支援活動の為に人員確保など）として必要とする地域や事業所の方は、いつまでにどれくらい必要かを教えて下さい。また、逆に社会福祉士会のメンバーとして被災地域（県内あるいは東北各県）にいてボランティアとして活動できる方がいらっしゃればお知らせ下さい。ボランティアをお願いする場合には、原則的には連続3日程度ご参加頂くことをお願いしております。（ブロック長あるいは事務局にあるいは会長アドレス e-mail : takenouchi@csw-iba.org に直接でも構いません、ご連絡下さい。）

このような時だからこそ、私たち一人一人ができることをこつこつとやり抜き、利用者やご家族の方、地域住民の方々が一日も早く安心な暮らしが確保できるよう全力で取り組まなければなりません。その上で、社会福祉士という職能団体として貢献できることを一緒に実行していきましょう。会員の皆様のご協力お願いいたします。

2011.3.24

目次、会員の皆様へ～私たち一人一人ができること・本会として取り組むこと・・・1

『第2回茨城県社会福祉士共通基盤研修』を受講して・・・2

権利擁護講座を受講して・・・3

各ブロックからの活動報告・・・4～8（県北ブロック・中央ブロック・県南ブロック
・県西ブロック・鹿行ブロック） 編集後記・・・8



2011年度 第2回共通基盤研修に参加して



鹿行ブロック所属 埴 絵美

2月19日（土）に平成22年度第2回社会福祉士共通基盤研修を受講しました。竹之内会長を講師に、午前は講義、午後はグループでの事例検討が行われました。講義および事例検討のテーマは「援助事例にみる継続的・包括的支援とは」です。

人には、それぞれ習慣や価値観があります。家族という社会のなかで培った習慣や価値観はその人の生活そのものであり、これまでも、そしてこれからも続いていくものです。つまり、クライアントそれぞれに習慣や価値観があり、継続する生活がある。支援者は、自身の価値観を押し付けるのではなく、クライアントの習慣や価値観を尊重し、また、クライアントがどうしたいのかという自己決定を尊重し、それが最善のものとなるよう、寄り添いながら支援していく。そして、クライアントの生活は継続するものであるから、支援者も継続して支援していくことが大切であるということでした。

事例検討では、クライアントの抱えている問題に対して、誰がどのように介入し、どう支援していくかなど、グループに分かれて検討しました。グループごとにさまざまな支援方法が発表されましたが、やはり、共通しているのは、クライアントの生活にどう寄り添い、支援していくか、というところでした。

また、顕在化している問題だけでなく、潜在的な問題となっている事柄にも支援の手を広げていく必要があり、さまざまな側面から支援方法について発表されました。方法によってクライアントを支える支援者は異なり、さまざまな関係機関、フォーマルサービスとインフォーマルサービスが協力し合い、チームを構築し、支援することが大切である、ということでした。

現在、職場においても、地域に目を向け、支援を必要とする方に対し、訪問調査をし、必要としている支について話を伺い、関係機関と連携し、どのような支援が必要なのかカンファレンスを行い、支援しています。今後とも、日本国憲法第25条にある「健康で文化的な生活」という言葉・概念を念頭におきながら支援をしていきたいと思えます。

今回の研修では、ひとりの支援者、社会福祉士として、クライアントの生活に寄り添い、どうしたいのかという自己決定を尊重し、支援していくことの大切さを改めて感じました。また、支援した後も、クライアントが安心して地域で暮らせるよう、関係機関と協力連携して、さまざまなサービスを活用しながらクライアントの生活を支えることが重要であることを再確認でき、自分の仕事に繋がる、とても充実した研修でした。



権利擁護講座を受講して



県北ブロック所属 鈴木 弘昭

平成 22 年 11 月 23 日（火）午後より常陸太田市のパルティールホールにて、平成 22 年度ばあとなあいばらき県北ブロック権利擁護講座・無料相談会が行われました。今回の講座に参加された人数は、少なかった事実ではありますが、茨城消費者教育講師 松本由美子先生 による講演と、ばあとなあいばらき稲嶺裕子氏による講演を聞いて、参加された皆様からは、有意義な時間が過ぎたという声がたくさんあったものとなりました。

松本由美子先生の講演では、悪質商法と対処法という事でこれまでの訪問販売による相談状況・最近の悪質な商法を先生が実際経験された事例を通して話していただきました。そこで、近年では 60 代・70 代の高齢者の相談が増加傾向にある現状を知りました。また、高齢者を狙った悪質商法で「住宅リフォーム」のビデオを視聴し、講演を解りやすく勧めていただきました。

講演を聞いた私も悪質商法の現状を先生の実例を聞くことで、これまで現状を知らなかった私でも今起こっている現状を知ることができました。現状を聞く事で、悩んでいる人・困っている人がたくさんいる事を知り、何とかしてあげたいという気持ちになり、身の引き締まる思いでした。講演において、悪徳商法の対処法として「結構です」と言った曖昧な返事をするのではなく「おことわりします」「興味ない」とはっきりと断ることを教えていただきました。高齢者をだますキーワードも販売員等には、あるそうで「健康」「お金」「孤独」という言葉に高齢者は弱いとの事でした。最後には、騙された人は被害者であるという原則を守って欲しいという先生からのお願いがありました。原則というのは、被害者を「決して笑わない」「地域ぐるみで支援していく」という事であります。プロが騙しているのだから素人が騙されてしまうのは、当然である。そして、騙された人が訴えやすい環境を整える地域も必要であるとの事でした。

ばあとなあいばらき稲嶺裕子氏による講演では、消費者被害から守る成年後見制度という事で成年後見制度の仕組みから現状まで講演をしていただきました。のみこみの悪い私ですが、稲嶺さんが実際後見人をされている方の事例の話を通して解りやすく説明していただきました。実践経験がない私でも理解しやすい講演で、私自身大変勉強となりました。また、成年後見制度の仕組みで何処まで私達がする事ができるのか、これから安心した暮らしをまもるために何が必要となるのかを理解し、今後の課題として考える事ができるものとなりました。

今回の講演は、短い時間ではありましたが、自分にとってとってもいい勉強会となるものとなりました。これからもたくさんの皆様の参加をお待ちしております。気軽にお越しいただければ幸いです。今回の講演となるまで、市民への広報啓発活動や行政としての対応等たくさんの方々の協力があったと聞いております。その皆様に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。



県北ブロック宿泊研修会に参加して

県北ブロック 萩谷 亜希子

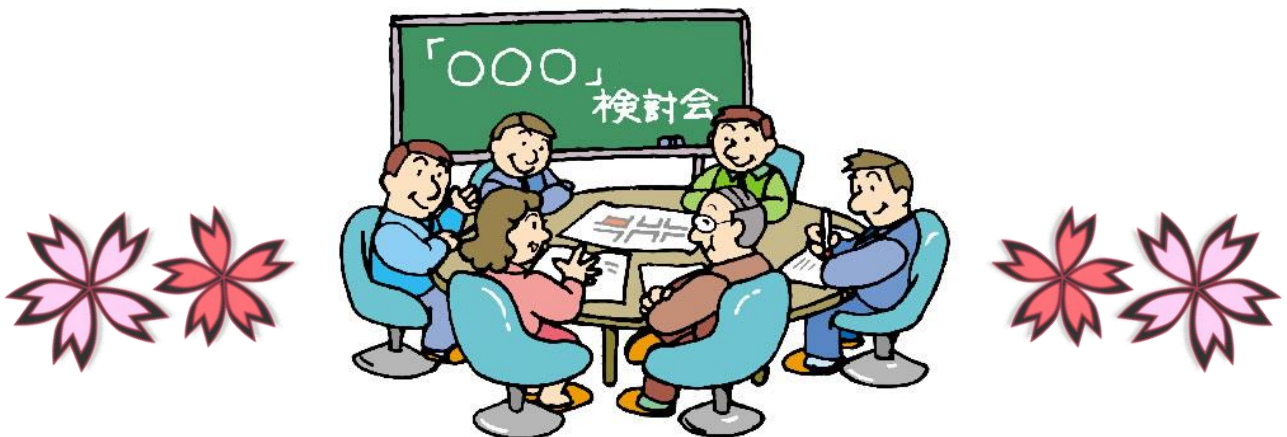
1月21日、22日の2日間、県北ブロック宿泊研修会が日立市の「かみすわ山荘」で開催されました。

今回は日ごろの支援の中で困難を感じている事例を持ち寄っての事例検討会と、悩みや日頃感じていることを気軽に話し合おう、という内容で研修を行いました。私は初めてブロック研修会に参加させていただいたので、現地に着くまで少々緊張していたのですが、十津川ブロック長を始め、参加されている会員の皆さんの温かい雰囲気や言葉に自然と緊張もほぐれていました。

事例検討会に入る前に仕事や活動などの自己紹介を行い、その後3名の会員に事例提供をしていただいた、それぞれの事例について参加会員から前向きな意見や今後の取り組みについての展望など意見交換が行われました。そのやり取りされる言葉の一つ一つに、皆さんが日ごろ社会福祉士として地域や職場等で取り組まれている様子を想像することができ、またいろいろな事例を共有しながら今後もより良い支援に取り組んでいこう、という姿勢を強く感じました。日々の支援は模索しながら、という状況が多々あると思います。このような機会に助言をもらうことで、新たにヒントを得たり、連携・協力を得ることができるのは自分自身も勇気づけられました。

検討会の後は食事等を取りながらの懇親会となり、情報交換をしたり、和気藹々とした雰囲気のなか会員同士、交流することができました。宿泊だったのですが、所用があり泊まることができなかったのが少々残念です。きっと夜の部も盛り上がったことと思います。

今回初めてブロック研修会に参加し感じたことは、日頃の業務だけでは得ることのできない情報や知識、物事のとらえ方、そして何よりも、各会員がそれぞれ取り組まれている姿に刺激をうけることができた、ということが自分にとって非常に大きなものでした。日頃は職場内だけの物事の見方や考え方をしてしまいがちですが、このような機会に多方面で活動されている各会員から情報等をいただきながら、一職業人としてだけでなく、社会福祉士としても日々の業務や支援にもより良い形で反映させていくことができるよう、今後も頑張りたいと感じました。



中央ブロック VOICE!

「震災後の今思うこと」

東北関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このたびの震災では多くの貴い命が失われました。悲しい出来事ですが、気づかされたこと得られたものがたくさんありました。私の勤務する施設は知的障害者の入所施設です。3月11日まさしく一瞬にして、電気、ガス、水道等のライフライン、電話、携帯等の通信手段が途絶えました。全てを自分たちで考え、決断し、行動していかなくてはなりません。そのような中、利用者、職員、地元自治体の皆様は目ざましい動きをしてくれました。

- ・パニックを起こさず寒さと暗闇のなかをじっと耐えてくれた利用者
- ・差し入れや見守りに駆けつけてくれた御家族
- ・自転車で片道30kmの距離を出勤してくれた看護師
- ・限られた食材で献立を考えてくれた栄養士、食事を作り続けてくれた調理員
- ・水、物資の調達に奔走してくれたスタッフ
- ・食材を補給してくれた地元福祉事務所の皆様

過酷な状況下にあって、何故か施設の中は笑いが絶えませんでした。職員のチームプレイに感心し、関係機関の支援に感謝をするばかりです。施設内・外の絆が深まったことがこの度得られた何よりの財産です。

今、世界で日本人の評価が高まっているとの報道を目にします。

「消息を絶った家族を探しながら、生活必需品が届くのを待ちながら、冷静さを失っていない住民の姿」「半分空になった店の前でさえもきちんと並ぶ日本人」「なぜ日本では略奪が起きないのか」等々、他国では考えられないことのようにです。

震災後の今、日本人の力、文化、コミュニティのすばらしさを実感し、日本人であることを心より誇りに思っています。いまだ避難生活をされている皆様、復興の途にある皆様にも必ず春がやってくることを確信しております。

障害者支援施設あさひの家
施設長 郡司 征樹

* 2011年3月21日(月)に予定しておりました中央ブロック研修会

●●●出会いをつないで●●● ～「つながる」ことを考える～ は、震災直後でもあり延期とさせていただきます。4月以降、準備が整いましたら開催いたしますので、日時等はまたお知らせいたします。また、この研修は全会員を対象にしておりますので、皆さまどうぞ、ご参加ください！

2010年度 第2回社会福祉士会共通基盤研修をふりかえって

第2回共通基盤研修(2010年度)が茨城県総合福祉会館で、テーマは共通基盤6領域の中の「生活構造」:「援助事例に見る継続的・包括的支援とは」という内容で行われました。(参加者:43名)

午前中は竹之内会長による講義があり、社会福祉士として「生活」をいかにとらえるか?生活支援をするとはどういうこと、何を基準に展開するのか?さらに、生活とは連続面であり切り取れるものではないことなどを、いくつかの支援のケースと合わせて考えていきました。午後は、事例をもとに各グループに分かれての演習を行うことで、色々な考えを出し合えたのではないのでしょうか。

研修会後の懇親会は、会場近くのがんこ家で行われました。(参加者20名程度)予約が開店と同じ17時で、寒い中店があくまで外で待っていた方には申し訳なく思います。すみません。しかしながら、飲み放題の時間2時間を超え、20時すぎまで話し込んでいたパワーはすごい。当日、仕事が終わってから、懇親会に参加していただいた会員の方もいらっしゃいました。

今回、急遽、懇親会幹事となりましたが、予約等も済んでおり、会費集めも受け付けの方に行っていたいたり、お膳立てしていただいたうえでの代理であったので本当に助かりました。また、このような機会に手伝えることが出来ればと思います。

鈴木 重史

県南ブロック活動報告

ホームページ ⇨ <http://ibanancsw.hp2.jp>

走り続けた今年度も間もなく終わりを迎えようとしています。手探りで活動をはじめ、2年目となる今年度は様々な企画を実現することができました。これも、団結力、実行力のある県南ブロックの心強いメンバーのおかげと感じています。

来年度も協力しあいながら、より有意義に感じられる活動を目指し、頑張っていきましょう！県南地域の多くの会員の皆様の活動への参加を心よりお待ちしております。ぜひぜひ一緒に活動を楽しみましょう！

瀧澤先生をお招きして事例検討会を行いました！

3月6日（日）、土浦市亀城プラザを会場に、茨城大学教育学部教授である瀧澤利行先生をお招きしての高齢者虐待に関する事例検討会を行いました。

最初にパワーポイントを使用して、事例分析の目的や必要性、手順や意義付けについて1時間ほどお話して頂きました。事例の内容について話し合うのはもちろんのこと、事例を持ってきた人がどうしてこの事例を検討したいと思ったのかも含めて検討するというお話には、事例の内容だけに注視しがちなところでそういう視点も大事なんだと気づかされました。その後は、会員より募った事例より2例を取り上げ、グループに分かれて事例検討会を行いました。

参加者は9名と少ない人数ではありましたが、その分、4時間という時間の中で発表の時間をとってもじっくり2事例について検討できたことは良かったのではないかと思います。それぞれのグループの中でも活発に意見交換がなされておりました。

事例検討会にはこれが正解という答えはありません。だからこそ、それぞれの視点を持ち寄り話し合うことで発見があったりもし、より良い方法を見出すことができるのだと感じました。



2010年度 県南ブロックの活動の記録

- 8月28日 バーベキュー大会 in 牛久シャトー
- 9月19～20日 共通基盤研修を県南地域で開催
- 10月3日 「高齢者虐待の光と影」研修会
講師：茨城大学 瀧澤利行先生
- 12月4日 「DV・虐待が子どもに与える影響とその回復援助」研修会
講師：筑波大学 森田展彰先生
- 12月18日 忘年会 in 和食里山
- 3月6日 「高齢者虐待に関する事例検討会」
- * 5月・7月・9月・11月・1月にブロック会議&懇親会を開催。3月19日開催は震災の影響を考慮し延期

定期的に事例検討会をやいませんか？

2ヶ月に1度のブロック会議とは別に、月に1度ぐらいのペースで少人数で集まっての事例検討会をやってみませんか？

詳細はこれから検討で今現在は未定ですが、来年度からスタートできたらという声が聞かれています。気軽に参加できるように、参加できるときに参加すればOKというスタンスでの開催を考えています。

皆さまぜひ、企画・運営にご協力をお願いいたします。

県西ブロックだより

《ごあいさつ》

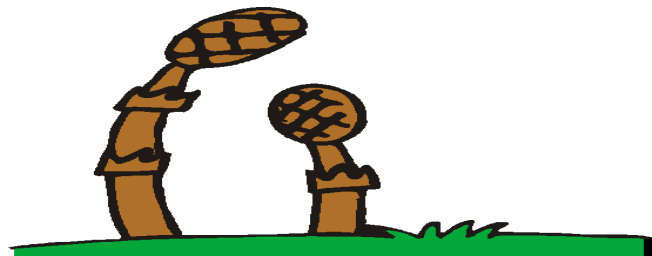


今年度もいよいよ終わりを迎えようとしております。

会員の皆様は、それぞれの職場で年度切り替えの準備等、お忙しくご活躍のことと存じます。

今年度は、あまりブロック会議を開催することができず、誠に申し訳なく思っております。来年度は、皆様に少しでも多く交流の機会を提供できるよう、努力して行きたいと思っておりますので、何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

茨城県社会福祉士会 県西ブロック長 鳥羽紀久子



お知らせ

平成 23 年度、茨城県社会福祉士会主催の共通基盤研修が、県西地区を会場に開催されることが予定されております。今後、円滑な開催に向けた準備が必要となります。つきましては、皆様のご協力を賜りたく存じますので、何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、共通基盤研修は、過去の受講の有無に関わらず、社会福祉士として持つていなければならない共通の基盤を学ぶ良い機会ですので、多くの皆様の受講をお願いいたします。

鹿行ブロック活動準備会を開催！

ブロック活動を心待ちにしている鹿行地域の社会福祉士の中から交流会の開催をのぞむ声
が上がり、顔合わせをしようと声を掛け合って、3月6日、鉾田市内の会場にて準備会を行い
ました。

今回の参加者は17名。市役所、社協、地域包括支援センター、病院、居宅介護事業所など、
様々な分野で働く社会福祉士の参加がありました。今回は、「年度内に何とかブロックとして
の活動の芽を作りたい」ということで急いで開催しましたので、広くお知らせすることができ
ませんでした。しかし今回の準備会を通して、支部活動の「芽」ができ、23年度以降のブロ
ック活動のスタートが実現しそうです。

鹿行は字のごとく、北浦を挟んで鹿嶋と行方の二郡にまたがる地域で南北に長い海岸と北浦
湖岸に面した地域です。そのため串に刺さった団子のような各市の配置は日常的な交流を阻害
している要因か(?)と思われます。しかし、今回の準備会に集まった福祉士からは、仕事上、
顔の見える連携を行っていくためにも交流会、勉強会などを身近な地域でやりたいという声
が上がっていました。現ブロック長からは、四月よりブロック運営の事務局を鹿行地区内の各市
で持ち回りで担当していくことが提案されています。

未曾有の震災被害により混乱が続く日々ですが、「今日より明日」の思いを繋いで生活の再
建に取り組んでいきましょう。

(鉾田市地域包括支援センター社会福祉士：澤井)

【編集後記】

この度の東北関東大震災において被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。
ご自宅や職場等で被害に遭われたり、対応にご尽力されている方も多くいらっしゃるこ
とと存じます。震災の被害を受けられた皆様が、早期に安心して過ごせる日常に戻るこ
と、被災した地域が早い復興を迎えられることを心より願っております。このような
時だからこそ、互いに協力しあいながら乗り越えていきましょう。

そして間もなく新年度を迎えようとしています。茨城県社会福祉士会では来年度もよ
り充実した有意義な活動が行えるよう努力してまいりたいと思っております。多くの会
員の皆様の会活動への参加並びにご協力を心よりお待ちしております。

なお、今回の広報誌発行につきまして、当初の原稿の締め切り時期が震災と重なった
ために発行が遅れたことをご了承ください。また、こういった状況の中で発行に向けて
ご尽力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

広報事業部